信毎ヤンジャ　県高校生プレゼン大会 17-20面
総合・国際　米公聴会 代理大使が証言　4面
経済　GDP成長率鈍化　7面
スポーツ　W杯2次予選 勝負強く4連勝　22面
社説　桜を見る会／セブン－イレブン　5面

東信　別所線運行拡大を歓迎
北信　被災醸造場みそ最高賞
中信　15歳双子が挑む初舞台
諏訪　児童が絵本作りに挑戦
飯田伊那　「世界に一つ」のラベル
地域ニュース26－29面

2019年（令和元年）
11月15日
金曜日

鹿肉で1杯 夢へ一歩

山の恵みを伝えたい―。信州大の学生が伊那市に「ジビエ居酒屋」を開店。夢に向けて一歩を踏み出した。地域面飯田伊那から

大相撲　●御嶽海　よりきり　隠岐海　23面

千曲川 台風19号で被害・しな鉄運休に

東御の護岸 過去2回崩落

59年・82年 専門家「対策必要」

台風19号で崩落した東御市本海野の千曲川右岸が、同じ場所で過去に少なくとも2回、洪水で崩れていたことが14日分かった。今回は海野宿橋を含む市道が崩落し、しなの鉄道が田中（東御市）―上田（上田市）間で運休する原因にもなった。海野宿橋の応急対策工事は同日完了し、しなの鉄道は15日に運行再開するが、専門家は本復旧に向けて従来の工法では不十分と指摘。繰り返された災害を踏まえ、橋の基礎構造を強化するなどの対策が必要としている。

千曲川右岸は台風19号で、海野宿橋付近から旧北国街道海野宿近くまで300㍍にわたって崩落した。崩落幅も40㍍近くあり、堤防とその内側にあった市道白鳥神社線、市営海野宿第1駐車場が流れた。海野宿橋は堤防の内側にあった橋台が横転。橋が落ちる危険性があり、下を通るしなの鉄道は田中―上田間が約1カ月にわたり運休となった。

旧東部町（現東御市）で建設課長などを務めた所栄弘さんがまとめた「海野堤防水害記録」（1983年）によると、59（昭和34）年と82年に今回とほぼ同じ場所が崩れ、堤防が流出している。59年には正確な記録はないが白鳥神社前を中心に約300㍍が崩れた。82年には金原川との合流地点など今回とほぼ同じ場所が約200㍍にわたって崩れ、同駐車場と同じ場所にあったテニスコートや畑などが流失した。

崩落場所では千曲川が急角度で左に曲がり、護岸に水が直接当たる。海野宿橋近くの自宅から市営住宅に避難している原田高夫さん(70)も「これで護岸が壊れたのは3回目」と証言し、「また同じようなことが起きる可能性はある」と懸念する。

東御市都市整備部建設課によると、海野宿橋を含む市道が完成したのは99年。橋台、橋脚とも陸上にあり、固い地盤に基礎を直接置く工法で、くいを打ち込むなどの深い構造ではない。土屋親功・都市整備部長は「護岸が崩れないという前提で工事をしていた」と説明する。

小西純一・信州大名誉教授（土木工学）は「そもそも護岸に問題があったが、橋の基礎構造も、川の間近であればくいを打つなど深くすべきだった。復旧工事でも検討する必要がある」と指摘する。

復旧工事は千曲川の護岸、海野宿橋とも国土交通省が代行しており、同省北陸地方整備局は護岸の応急復旧工事を15日に完了させる見通し。同局は「本復旧では県とも調整しながらどのような設計がいいか検討する」としている。

過去に少なくとも2回崩れている千曲川右岸。応急対策工事を終えた海野宿橋（中央）の下をしなの鉄道が通る＝14日午後3時46分、東御市本海野

台風19号関連
ほかも決壊危険性　2
被災企業　再開PR　6
あの時　そして今　35

千曲川氾濫速報 一部未配信

国交省メール 全国計7河川でミス

国土交通省は14日、台風19号で氾濫したり、氾濫の恐れがあったりした国管理の千曲川など7河川で、住民に危険を伝える緊急速報メールを配信できていなかったことを明らかにした。相次ぐ氾濫で出先機関が混乱し、作業ミスがあったとみられる。千曲川と吉田川（宮城県）は実際に水があふれたが、氾濫発生情報を伝えるメールが一部で送れていなかった。

同省担当者は「大変申し訳ない」と陳謝した。この日は「資料の整理ができていない」として具体的な氾濫場所や未送信の情報内容など詳細について明らかにしていない。

速報メールでは「河川氾濫の恐れ」と「河川の水が堤防を越えて流れ出ている」「堤防が壊れ、河川の水が大量にあふれ出している」との3種類の文例がある。

一方、長野市穂保の千曲川堤防が決壊したとの情報が国交省側から市に直接伝わっていなかった問題について、同省の担当者は決壊情報を自治体に伝える制度はないとしつつ「決壊は重要な情報」と強調。各種情報を自治体に伝えるホットラインなどで決壊情報も説明したいとの考えを示した。河川の決壊情報を自治体に伝える仕組みの制度化は「必要に応じて検討したい」とした。

長野市災害対策本部によると、市内各所で千曲川が越水したとの情報はもたらされ、ホットラインでも同市穂保の堤防が「欠損して、いつまで堤防が耐えられるか分からない」「決壊したかは分からないが、非常に危険だ」との状況は説明されたが、「決壊した」または「壊れた」との確定情報については緊急速報メールなどを含めて受けなかったという。

果実などが散乱するリンゴ畑で、泥をかき出す農業再生復興ボランティアの参加者ら＝14日午前10時53分、長野市穂保

長野市長沼に農業ボランティア

リンゴ畑の復興へ一丸

ながの農協や長野県NPOセンター（ともに長野市）などでつくる実行委員会は14日、台風19号による千曲川などの氾濫で、農地に大量にたまった泥やごみを撤去するボランティア活動を長野市長沼地区で試行した。「信州農業再生復興ボランティアプロジェクト」と銘打った活動で、県内外から約400人が参加。試行を参考に、ボランティアを連日受け入れる態勢を2週間以内に整えるという。

【関連記事2面に】

長野市社会福祉協議会が運営する市災害ボランティアセンターは、農業が営利事業に当たることもあって、被災住宅への対応を優先してボランティアを派遣。農地の復旧は人手が追い付いていない。ただ、泥が多く堆積していると、果樹の根が呼吸できず、長引けば木が枯れる恐れが出ていた。

参加者はこの日、スコップを手に、実行委が事前にニーズを把握したリンゴ畑へ。腰をかがめながら木の根元に近づき、流木などのごみを取り除き、根の周囲半径2㍍を目安に泥をかき出した。

参加した上田市の会社員宮坂蒼さん(19)は「早く元の畑に戻ってほしい」。作業を受け入れた農業坂田光正さん(72)＝穂保＝は「ボランティアにはありがたいの言葉しかない」と話した。

信濃毎日新聞
1873年（明治6年）創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社　〒380-8546
長野市南県町　657番地
電話（026）
受付236-3000編集236-3111
販売236-3310広告236-3333
松本本社　〒390-8585
松本市中央　2丁目20番2号
電話（0263）
代表32-1200　報道32-2830
販売32-2850　広告32-2860
©信濃毎日新聞社2019年

一本の針に心を込めて…
ORGAN NEEDLE SMILE FOR SEWING, KNITTING & FELTING
オルガン針
www.organ-needles.com

天気

最高気温
最低気温

北部
6時 12 18 24
16日 17日 18日

中部
6時 12 18 24
16日 17日 18日

南部
6時 12 18 24
16日 17日 18日

	最高	最低
飯山	15	7
長野	14	4
大町	13	3
松本	15	2
上田	16	4
佐久	15	2
諏訪	13	1
木曽	14	1
伊那	15	2
飯田	15	0

☂ 5㍉以上　▶ 5㍉未満

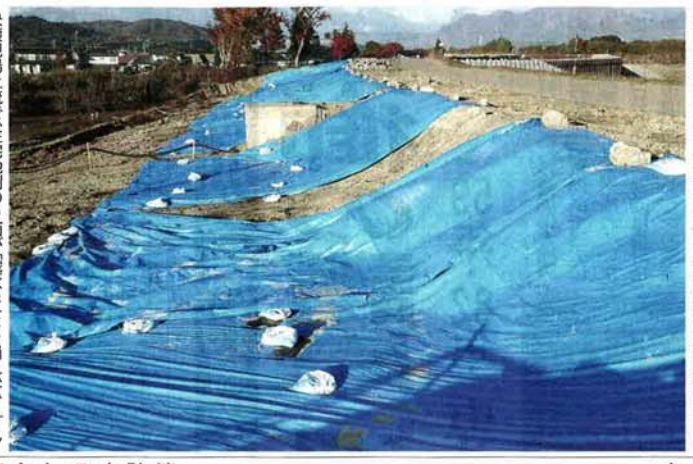
28面に詳しい天気情報

千曲川 ほかにも決壊危険性

長野・穂保の現場付近

堤防のり面 計500メートル崩れる

台風19号の豪雨で千曲川の水が堤防上を超える「越水」が長野市穂保の決壊堤防付近1・5キロにわたって発生していたことについて、専門家が他の場所でも決壊する可能性があったと指摘している。穂保の決壊地点の上流側、下流側ではともに、堤防裏（住宅地側）ののり面5カ所が計500メートルほど崩れた。有識者でつくる国の調査委員会は決壊原因を越水と結論づけており、被害がさらに拡大していた可能性もある。



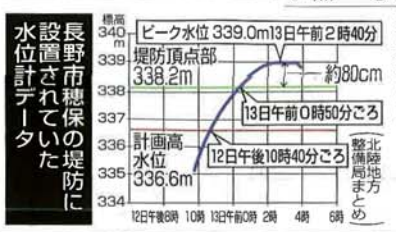
決壊現場上流で、住宅地側のり面が「越水」により崩れ、広くブルーシートが掛けられた堤防＝14日午後3時33分、長野市穂保

千曲川での越水は10カ所で発生した。越水したのは国管理区間で長野、中野両市のそれぞれ2カ所、上田、千曲、須坂各市と小布施町の各1カ所。県管理区間は上田市と南佐久郡佐久穂町のそれぞれ1カ所。

調査委は13日の会合で決壊した堤防について、越水した水が高さ5メートルの堤防の頂点から住宅地側に流れ落ち、その勢いで堤防を削ったことが主要因と結論づけた。国交省北陸地方整備局（新潟市）が、決壊した堤防に設置していた水位計によると、水は堤防の上を最大約80センチ上回った。

調査委メンバーの吉谷純一信州大工学部教授（河川工学）は14日の取材に、越水した水が堤防を上回る高さは平均30センチと指摘。多くの場合で60センチ以内に収まるとし「80センチに達したということは、水の勢いがかなり強かったことが分かる」。決壊地点付近も含め、越水があった10カ所についていれば、他にも決壊する危険があった」とした。

県災害対策本部の13日時点の調べでは、長野市では36



20世帯が浸水の被害を受けた。決壊に至らなかった中野市でも124世帯、千曲市で16553世帯、須坂市で349世帯と、越水は大きな浸水被害をもたらしている。

同整備局によると、台風19号で被災した堤防ののり面などは国が災害査定をした後、本格的な復旧工事を行う。時期は未定という。

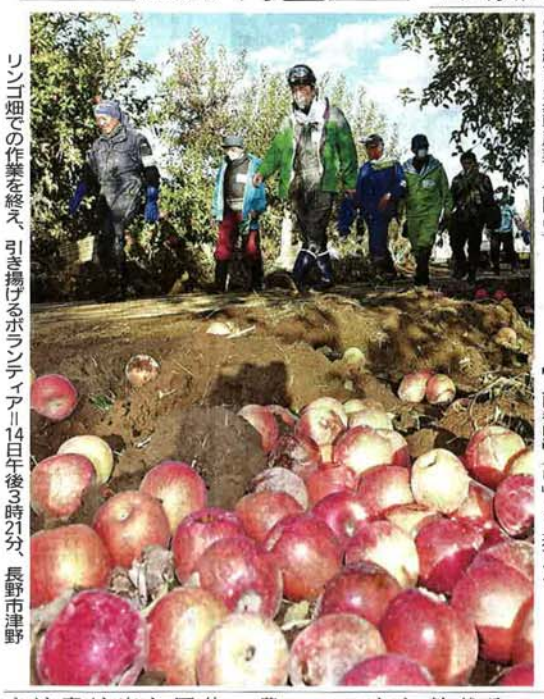
長野市長沼に農業ボランティア

基幹産業守る新たな試み

台風19号で被災した長野市長沼地区で14日、農地の泥やごみを撤去する「信州農業再生復興ボランティアプロジェクト」が試行された。農業が営利事業に当たることもあり、各地のボランティアセンター（VC）は、ボランティアの派遣先として被災家屋を優先してきた。ただ、被災地の多くで、農業は地域の盛衰に直結する基幹産業。今回は民間団体を中心とする別の枠組みを設け、ボランティアの熱意を生かすことになった。

【1面参照】

ボランティア派遣と農地復旧のイメージ



リンゴ畑での作業を終え、引き揚げるボランティア＝14日午後3時21分、長野市津野

「人の力はすごい」。同市津野の農業下川英紀さん（50）は14日、ボランティアの力でリンゴ畑のごみ撤去が進み、感謝した。だが1・5ヘクタールの畑は「ごみは半分以上片付いた」一方で、厚さ最大約40センチの泥に覆われたまま。「今後は泥を出し、木に付いたごみを取って消毒しなければならない」と見据える。

県内では台風19号災害後、市町村の社会福祉協議会が設置するVCが、ボランティアの受け付けや派遣先との調整を担い、被災家屋の復旧に優先して対応してきた。VC運営を支援する県社会福祉協議会は「農業は営利事業。生活の場である住居の環境整備が最優先された」と説明する。

長野市東北部の国道18号が「アップルライン」と呼ばれるように、この地域でリンゴ栽培をはじめとする農業は基幹産業だ。下川さんも「被災した家は、借りたらどうにかなるが、売り物のリンゴを失ったら、生活の基盤がなくなってしまう」と話す。

こうした声を受け、ながの農協や長野県NPOセンター（ともに長野市）など民間団体が実行委員会をつくり、今回のプロジェクトが動きだした。実行委事務局を務める山室秀俊・同センター事務局長は「この地域といえば果物。産業が成り立たなくなることは地域の衰退を招く」と強調する。

県農政部のまとめによると、台風19号災害により北信地域で泥が5センチ以上堆積する被害があった果樹農地（一部田畑を含む）は長野市、中野市など6市町で計903ヘクタール。泥が5センチ以上たまった状態が長く続くと、リンゴなどの根が呼吸できず、木が枯れる恐れがあり、対応が急がれる。

ボランティアと連動し、行政も動く。長野市は長沼地区の農地51ヘクタールを優先区域とし、堆積した土砂を重機で撤去する方針。まず地権者の同意を得た津野の水田約3400平方メートルで15日から作業に入り、今後はリンゴ畑などに広げる。プロジェクトのボランティアはごみの撤去や、木の根元の泥のかき出しなど重機では難しい作業を分担する。

プロジェクトは今後、ボランティアを連日受け入れる態勢を2週間以内に整え、並行してボランティアを募集する。山室事務局長は「雪が降る前にできるだけ作業を進めたい」と話している。

（田中達也、奥川瑞己）

全国市長会

復旧担う国組織 設置提言へ 研究

全国市長会（会長・立谷秀清福島県相馬市長）は14日、防災対策特別委員会を東京都内で開き、台風19号など最近の大規模災害への対応を議論した。被災自治体との窓口になったり復旧・復興を一元的に担ったりする専門組織の設置を国に提言すべきだ―との意見が出て、今後研究することを確認。被災ごみなどの処理に関して、被災自治体の負担軽減のため国による財政支援を求めることで一致した。

【関連記事地域面北信に】

県内からは特別委委員の加藤久雄・長野市長らが出席。被災状況などを報告した加藤市長は、同市穂保の千曲川堤防の決壊などから1カ月が過ぎて「ようやく（復旧・復興に向けた）先が見えてきた」との認識を示した。

意見交換で、副委員長の谷畑英吾・滋賀県湖南市長が「災害ごみの対応は環境省が担うが、（その他も担当する）『環境防災省』のような組織をつくるよう国に提案すべきだ」と発言。立谷会長も「ワンストップで（被災自治体からの相談などを）受け、対応する役所が必要だ」と同調した。ペットを連れた被災者が入居する避難所や復興住宅などの制度化に向けて、議論を深めるべきだとの意見も複数市長から出た。

全国市長会は14日、理事・評議員合同会議も開催。決壊した堤防の集中対策や被災自治体への財政支援、医療機関の統廃合問題を含む地域医療施策に地方意見を反映させることなどを国に求める決議をまとめた。

意見交換で、副委員長の谷畑英吾・滋賀県湖南市長が「災害ごみの対応は環境省が担うが、（その他も担当する）『環境防災省』のような組織をつくるよう国に提案すべきだ」と発言。立谷会長も「ワンストップで（被災自治体からの相談などを）受け、対応

災害対応を担う国組織の必要性などを議論した全国市長会の防災対策特別委員会＝14日、東京都内

長野など10都府県が加盟

北陸新幹線の同盟会 台風被害で緊急要請

長野県をはじめ10都府県が加盟する北陸新幹線建設促進同盟会などは14日、台風19号被害を踏まえて政府・与党に緊急要請をした。長野新幹線車両センター（長野市）で浸水した車両に代わる新たな車両製造などを求め、早期の完全復旧を要請した。

浸水被害の再発防止に向け、国による治水対策や原因究明の徹底を要望。年末年始など繁忙期の利用者の利便性確保も欠かせないとした。その上で、2022年度末までの敦賀延伸の確実な実施、30年度末ごろまでの全線整備を求めた。

同盟会は総務、国土交通省と自民、公明両党の国会議員を訪ねて要望書を提出。長野県の小岩正貴副知事は「台風19号被害で改めて北陸新幹線の重要性を確認した」と述べた。

台風災害復旧へ 知事査定始まる

補正予算案

県は14日、28日に開会予定の県会11月定例会に提出する補正予算案などの知事査定を始めた。台風19号災害からの復旧・復興に向けて、政府がまとめた「対策パッケージ」を踏まえた関連経費などを計上する予定。知事査定は15、18日も行い、22日の部局長会議で予算案などを正式決定する。

補正予算案には、台風被害を受けた中小事業者や農林業者などの経営再建に向けた産業振興策を中心に計上する見通し。阿部守一知事は冒頭、「産業面を含め、しっかり災害から立ち上がっていくために極めて重要な予算だ。県民や事業者が期待する良い形の予算になるように努力したい」と述べた。

県はこれまで2回にわたって復旧関連経費計135億1500万円を盛った補正予算を専決処分しており、11月県会で報告する。

あの時そして今

千曲川氾濫 1カ月

またここに住むかどうか

長野・穂保の破堤箇所近くの男性

濁流に恐怖 自宅の再建に迷い

ひと月前の10月13日朝。千曲川破堤の一報を聞き、取材のため長野市穂保の現場近くに駆け付けた。水しぶきを上げ、今にも家並みを押し流してしまいそうな濁流の中、孤立した住宅から自衛隊ヘリに助け出される住民を見た。

翌14日。電柱が倒れ、畳やリンゴの木やよく分からない家財が泥の海のあちこちに顔をのぞかせる街に入った。破堤箇所から約300㍍しか離れていない家で出会ったのが吉村義典さん(64)だった。前日、救助されるところを見ていた、その人だった。

代々の家を建て替えてまだ十数年という自宅が心配で見に来ていた。屋内まで泥でぬかるみ、冷蔵庫もソファもテーブルも散乱。どこから手をつければいいのか、途方に暮れて市内の長男方に戻っていった姿が忘れられない。

あれから、久しぶりに家を訪ねて再会した吉村さんは、少しやつれて見えた。

辺りの泥はすっかり取り除かれ、道には車が行き交う。親戚や知人らの手を借り、使えなくなった家具などをすべて運び出した家の中も、いよいよ修復に乗り出すばかりに見える。だが、吉村さんは言った。「またここに住むかどうかは分かりません。本当はボランティアさんにも頼んで、泥出しもしないといけないんだけど…」

一帯で生活再建を決めた家は、床下の泥をかき出して消毒し、かびが生えないよう水を含んだ壁の断熱材を取り除く作業を終えたところが少なくない。吉村さん方の床板に開いた穴をのぞくと、まだ多量の泥がたまっていた。

今月初めには一時避難していた長男宅を出て市内にアパートを借り、妻、三男と暮らし始めた。借り上げ型応急仮設住宅（みなし仮設住宅、入居期間2年）の手続きを進め、週数回の料金所のアルバイトにも復帰した。ただ、自宅をもう一度建て直すとなると、老後のための預貯金を切り崩さないといけない。

兼業農家として栽培していたリンゴの木も随分流された。「今から植えても収穫は4、5年先。リンゴももうやめようと思います」と言う。

堤防決壊の恐怖も頭を離れない。一気に押し寄せた濁流から2階に逃れ、携帯電話で撮影した動画には、階段途中まで迫った泥水が逆巻く光景が残っている。生きた心地がしなかった。

堤防の決壊箇所は新たに土砂で埋められ、鋼材を打ち込んだ仮堤防が出来上がっている。ただ、「しっかりした堤防ができても、近年の異常気象ではまた大雨で同じようなことが起こるかもしれない」。これからどうするか。がらんとして、時間が止まったままにも見える自宅前で、吉村さんは語った。

（佐藤 勝）

◇ ◇

台風19号が千曲川流域の風景を一変させて1カ月がたった。何が変わり、何が変わっていないのか。取材で出会った人々の今を訪ねる。

まだ泥をかき出していない自宅の床下を見つめる吉村さん＝9日、長野市穂保

自宅（左から2軒目）から自衛隊ヘリに救助される吉村さんの家族＝10月13日午前8時57分

千曲川の堤防決壊 台風19号が千曲川流域にもたらした大雨で、10月13日午前0時55分、国土交通省が長野市穂保で越水を確認。午前3時から同5時半の間に堤防が約70㍍にわたり決壊した。支流の氾濫もあり、穂保を含む長沼、豊野、古里地区では824戸が全壊、236戸が大規模半壊、254戸が半壊した。長沼地区では住民2人が死亡しているのが見つかった。

スマホで動画を見られます